

患者様と共に、スタッフが一丸となって、より質の高い医療を目指す

医療安全管理部 セネラルリスクマネージャー (GRM) 本間和子 看護師長



病棟スタッフステーションでの医療安全管理指導

医療の現場では、患者様の安全・安心をより質の高いものにするため、医師や看護師を始め、多くの職員が連携を図りながら、日々努力しています。医療は、100%の安全・安心が求められますが、人が人に医療する以上、完璧な結果をだすのは難しいことです。それを100%に近づけるため、医療安全管理部があります。私たちは患者様とご家族が、一番いい治療を選択できるようにサポートします。また、安全性を高めるために患者様とご家族に医療チームの一員として、治療に参加して

いただく取り組みを始めています。

例えば、患者様自身に、ご自分のフルネームを名乗っていただくことのお願いはじめ、入院時には転倒防止の「転ばぬ先の杖」として、スリッパではなく足に合った軽い履物(くつ)を選ぶ、ズボンの裾の長さに気をつけるなど、患者様にもご注意いただけることをピックアップ。投薬は医師や看護師が確認するのはもちろん、ベッドサイドでは患者様も一緒に薬の確認をお願いしています。もちろん、なぜこのようなお願いをするかについて充分説明させていただき、患者様参加型医療とも言えるパートナーシップで、より安全な医療を推進しています。

一方、スタッフには、医療の現場でヒヤットすること、ハットすることなど、患者様にとって有害になるだろうことを、大小関係なく、正直にレポートで報告してもらっています。



PROFILE

ほんまかずこ◎1972年姫路赤十字高等看護学院卒業。卒業後は姫路赤十字病院勤務。住友病院(大阪)を経て、1978年より当院勤務。趣味は旅行、自然鑑賞。旅行先は、近くで自然豊かな九州の温泉が好き。

当部の重要な役割は、現場でどういったことが起こっているかを、把握して分析し、事例を共有し、対策を立てその実施を支援することです。例えば、全体的なマニュアルとして、当院独自の「医療事故防止・安全管理マニュアル」があり、その作成や周知、必要に応じた見直しも行っています。関係部署の先生方やスタッフの意見を聞き、情報交換しながら、決して一方的ではないマニュアルやシステムを作成することを心がけています。そして各現場で医療安全を推進するリスクマネージャーと連携を深めながら、末端までマニュアルを周知徹底。月1回GRMレターを発行するなど、情報提供や広報活動も行います。医療安全の教育も大切ですから、教育計画の企画運営なども当部の業務として、講義や演習の集合教育も行っています。それらを全スタッフが理解して同じ思いで、協力的に推進していることは、当院が誇れる事の一つです。

医療安全は、ほんの小さな事の積み重ねだと私は思っています。それを確実に全員が徹底して実施する事が重要ですね。



医療安全に関してまとめられたマニュアルの数々